平成29年度

事　業　報　告

社会福祉法人　ぬくもり福祉会

Ⅰ．法人本部

《総括》

本年度は改正された社会福祉法の制度が本格的に始まったため、当法人においても、その対応を十分に確認しながら行ってきた。

時流と共に社会福祉法人の位置付けが大きく変化し「社会福祉法人は社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行い、自主的にその経営基盤の強化を図り提供する福祉サービスの質向上及び事業経営の透明性確保を図らなければならない」と規定されているため、福祉ニーズへのきめ細かい対応と既存制度で対応できない人々を支援する位置付けとして公益性と非営利性を備えて貢献する体制を求められている。

このことから、当法人では今後も法人理念を堅持しつつ、業務を展開する地域内でのサービス専門性を高めながら、業務運営する各施設の個別性を発揮して利用者・家族へのきめ細かなサービスを展開しなければならない。

福祉医療機構が、社会福祉法改正について社会福祉法人を対象に行った調査で、新たに定められた社会福祉充実残高が生じると回答したのは７％であることが明らかになっており、当法人もその中に含まれる。改正法では、法人の保有する財産から事業継続に必要な財産を控除して残った資金を社会福祉充実残高とし、社会福祉充実計画を策定した上で、計画的に再投資するよう定めている。

当法人が策定した社会福祉充実計画は、喫緊の課題でもある将来の事業展開のための職員育成事業、新たな人材雇用であるが、その進捗については達成とは言えないまでも、ある程度の結果は残せたと思われる。そしてさらに、その意味を鑑み、実効性のある計画にしていかなければならない。

今後とも、利用者・地域に選ばれる社会福祉法人として、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、中長期計画に基づき、新規事業の展開や経営改革に取り組んでいきたい。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）人権の尊重

年間計画	取り組み	評価
福祉の理念と根本的に相容れない虐待、身体的拘束等を決して容認せず、根絶する姿勢を示します。	虐待事例は４件あったが、アザの発見等すべて事業所から安城市へ通報した事例であった。事例は法人内で共有している。	△
利用者やその家族等からの苦情、相談に誠意を持って的確に対応するために、是正、改善の仕組みを点検し、的確に運用します。	苦情及び要望は９件に減り、苦情解決責任者において対応できた。事例は法人全体で共有している。	○
福祉制度、時代の変遷等により法人理念・基本方針が現在の組織の在り方を投影した	総合支援法の理解、社会福祉法人に求められる公益性を考える機会	×

ものになっているか、見直しを法人全体で検討します。	を組織的に作れておらず、各事業所での周知も不十分であった。	

（２）サービスの質の向上

サービス提供についてのマニュアルを策定し、職員に周知するとともに定期的な見直しを行います。	マニュアルの策定と見直しは組織的に取り組み、年度末まで終了したが、周知が不十分であった。	△
職員の専門的知識の習得、技術の向上のために、体系的な教育・研修プログラムを策定します。	一人ひとりの職員に合った研修に参加させているが、求める期待とずれていることがあった。	△
職員参加のもと、過去に受審した福祉サービス第三者評価の再点検、利用者満足度調査等を通じてサービス改善に取り組みます。	自己評価を行い、要改善点を今後の運営に課題として取り組んだ。利用者満足度調査を行い、職員全員で今後の課題を共有した。	△
法人の実情に沿ったアドバイスを法律の専門家である顧問弁護士から受けることにより、リスクマネジメント体制の再構築と強化を行い、適切に運用します。	神谷明文弁護士と顧問契約を結び、リスクマネジメント体制の強化を行ったが、顧問弁護士につなぐ案件はなかった。事業所内のヒヤリハット事例は７１件に増え、事故報告事例も１３０件に増えた。法人全体で共有しつつ、職員で構成する委員会でも防止策を協議した。	×
利用者ニーズを的確に把握し、新たな福祉ニーズに対応する事業展開を研究検討します。	さらなる重度・高齢化に対応していくため、安城市の障害福祉計画、法人が作成する社会福祉充実計画に沿って、将来へ向けての対策を研究検討した。	△

（３）地域福祉の推進

相談支援事業所ぬくもりの円滑な運営を通じて、地域の様々なニーズを把握していきます。	相談支援専門員２名を専従化したものの、法人の利用者１５０名、法人外の利用者８６名と多数契約しているため、かなりの負担があった。困難事例には、経験者の管理者が同行して引き継ぎ、サポートを行い、円滑な運営に努めた。	○

イベントの開催など地域に開かれた法人（施設）づくりを行い、地域住民等の福祉に対する理解の　促進と、地域とのつながりを構築していきます。	施設まつりなどを開催、または地域が開催するまつりに出店するなど、地域住民と関わる機会を積極的にもった。	○
名古屋保護観察所が行っている保護司の社会貢献活動に協力し、対象者の立ち直りの機会となることで、社会福祉法人としての公益的な役割を果たしていきます。	社会貢献活動が制度化される前に試行的に委託され、対象者の感想もよいものだったと聞いているが、対象者がいなかった。	△
安城碧海看護専門学校の実習受入先となり、福祉に理解のある医療従事者の育成に寄与します。	昨年度に続き、学校実習受入先となり、４０名が実習を行った。実習生の評価は、知的障害者への理解を深めるきっかけになったと好評であった。	○

（４）職員処遇の向上

職員処遇の改善について引き続き評価、分析を行い、職員のやりがい、帰属意識の向上、職員の定着につなげていきます。また、風通しのよい職場環境づくりを継続的に取り組みます	処遇改善に向けた取り組みの職員説明を折にふれて行い、職員一人ひとりの納得性が高まるよう努めた。また、ハラスメントに対応できる窓口を開設した。	○

（５）職員育成の充実

職員を適正に評価し、職員一人ひとりの自己実現、キャリア形成と組織が期待するものを調和させた育成システムを構築します。	公平・公正な人事制度の構築をするとともにキャリアパスの明確化を行うことを目指し、自己申告の実施を行い、所属長が職員全員と面談を実施し、職員の意見の聴取に努めた。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置づけるとともに、職員の成長段階に応　じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行います。	研修計画を策定し、一人ひとりの職員に合った研修に参加させた。本人のキャリア形成のため資格取得の奨励、研修希望をとりながら、より実効性のあり研修内容に努めた。	△
男女共同参画社会の理念を実現するために女性の感性を活かした育成システムの構築	女性プロジェクトを立ち上げ、女性が活躍できる取り組みを検討し	×

を女性目線の意見を取り入れ、検討していきます。	たが、思うような進展は見られなかった。	

（６）組織統治（ガバナンス）の確立

理事会、評議員会、理事、監事および評議員が各々の役割を認識し、法人経営と各事業経営のチェック機能、相互牽制機能の強化を意図した組織作りに努めます。	事業の透明化を目指し、役員名簿、事業報告、決算報告をホームページで開示した。また、法人本部内でのチェック機能により相互牽制体制の強化を図り、内部統制機能の充実に努めた。	○
社会福祉法の改正の趣旨を踏まえ、理事長および理事は、法人本部機能の強化をはじめとして、法人経営及び事業経営が良好に進展するような業務執行体制の機能の強化を図ります。	事業所において、理事会等で決まった事柄について、職員に迅速かつ正確に伝え、法人全体が同じ方向性で業務が遂行できる体制にした。	△

（７）財務基盤の安定

社会福祉法の改正の趣旨に沿って適正な社会福祉充実残額を計上し、社会福祉充実計画の在り方についても、地域のニーズに沿った長期的な視点に立ち、明確化していきます。	長期的な視点で、さらなる重度・高齢化に対応していくため、安城市の障害福祉計画、法人が作成する社会福祉充実計画に沿って、よりよい人材の確保、育成に努めた。	△
財務指標等に基づく経営分析等により、法人全体および各事業ごとの経営状態を適切に把握します。	施設長会議等で経営状態を報告する機会を持ち、管理者が把握できるように努めた。管理者から職員一人ひとりへの理解への取り組みが不十分だった。	△
職員全体のコスト意識を醸成するための取り組みを行います。	事業計画、予算策定に職員自身が関わることにより職員全体のコスト意識を醸成する取り組みを行ったが、理解が不十分なところがあった。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、その事業の将来性、継続性を見通した経営管理を行うとともに、限りある資源を有効に使い、効果性、効率性	社会福祉法人の公益性を鑑み、収益性が見込まれない部分への参入も含め、職員から意見を求める取り組みを実施した。	△

の高い経営管理を実現するよう努めます。		

（８）法人設立３０周年記念事業プロジェクトチームの発足

平成３０年秋にアンフォーレにて設立３０周年記念事業の実施を計画します。そのためのプロジェクトチームを発足させます。女性をチームのリーダーの据えて全員体制で成功に向けて臨みます。	プロジェクトチームをを発足させ、平成30年3月27日に開催した理事会において、事業計画の承認を得た。	○

２．運営事業

（１）第二種社会福祉事業

ア．生活介護事業所ぬくもりの家（定員40名）

イ．生活介護事業所ぬくもりワークス（定員60名）

ウ．生活介護事業所まるくてワークス（定員60名）

エ．共同生活援助事業所アットホーム（定員18名）

オ．生活介護事業所ぬくもりの郷（定員20名）

共同生活援助事業所ぬくもりの郷（定員20名）

短期入所事業所ぬくもりの郷（定員６名）

カ．相談支援事業所　ぬくもり

キ．就労継続支援Ｂ型事業所安城市虹の家（定員25名）指定管理の受託

（２）公益事業

ア．地域生活支援事業

日中一時支援事業（ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス・ぬくもりの郷）

３．役員会の開催状況

（１）第1回理事会

平成29年6月13日（火）ぬくもりの郷

出席理事5名・監事2名

（２）第１回評議員会

平成29年6月29日（木）ぬくもりの郷

出席評議員8名・監事１名

（３）第２回理事会

平成29年6月29日（木）ぬくもりの郷

出席理事6名・監事1名

（４）第3回理事会

平成29年11月23日（木）ぬくもりの郷

出席理事6名・監事１名

（５）第4回理事会

平成30年3月27日（木）ぬくもりの郷

出席理事6名・監事2名

（６）監事監査

平成29年6月1日（木）ぬくもりの郷会議室

出席監事２名・立会理事２名（理事長・常務理事）

４．リスクマネジメントの状況（延べ件数）　※（　）昨年度実績

	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくでワークス	アットホーム	ぬくもりの郷	相談支援	虹の家	事務局	計
ヒヤリハット事例	9	22	7	1	8	1	13	10	71(65)
事故報告	20	11	31	2	51	0	5	10	130(65)
苦情報告	2	0	2	1	4	0	0	0	9(15)
虐待事例	4	0	0	0	0	0	0	0	4(3)

５．第三者評価の受審状況

全事業所において、自己評価とともに過去に要改善とされた事項は、速やかに改善に取り組んだ。

６．職員研修の実施状況

法人主催の研修として新規採用職員を対象とし、事前研修（３月に実施）、事後研修（４月～10月の業務後に実施）を行い、新規採用職員の職務に対する意識の向上や知識の定着を目指し、早期戦力化を図った。研修の講師は中堅・ベテラン職員が務め、知識や技術の再確認をするとともに、ティーチングスキルの向上を図った。

７．会報の発行

法人の会報を発刊し、施設の内容などの紹介を行い、地域住民の理解を深めるよう努めた。

（１）発行回数　年２回

（２）発行部数　1,200部

（３）配 布 先　保護者・手をつなぐ親の会会員・福祉関係施設・行政機関
ボランティア団体・北明治連合町内会・赤松町内会・池浦町内会
学校等

８．職員の状況（正規職員）

（１）採用と退職状況（人）

	29年度末の職員数	29年度採用／退職		28年度採用／退職	
男	30（28）	3	1	2	
女	19（19）	3	4	2	2
計	49（47）	6	5	4	2

（２）有給休暇取得状況

勤続年数	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	平均
取得率（%）	0.0	109.0	97.0	74.0	68.8	70.0	63.3	76.8
取得日数（日）	0.0	12.1	12.1	13.8	13.8	14.0	12.7	12.2

（前年度取得率64,4%、日数9.9日）

9．借入金の状況

（1）福祉医療機構からの借入状況（平成30年３月31日現在）　単位：円

借入目的	借入年度	借入金額	平成29年度償還状況	借入残高
まるくてワークス施設整備	17年	30,000,000	元金1,500,000 利息 178,500	12,000,000
ぬくもりの郷施設整備	24年	80,000,000	元金4,032,000 利息 779,100	60,144,000
ぬくもりの郷Ⅲ施設整備	27年	30,000,000	元金2,016,000 利息 195,930	25,032,000
計		140,000,000	元金7,548,000 利息1,153,530	97,176,000

（2）借入金の償還財源の状況　単位：円

区分		金額	内訳
元利償還金(平成29年度)		8,701,530	元金7,548,000 利息1,153,530
財源	自己資金	6,289,530	本部会計
	補助金	2,412,000	愛知県（民間社会福祉施設運営費補助金）
平成30年度償還予定額		8,615,010	元金7,548,000 利息1,067,010

10．寄付金の状況

（1）事業活動による収支の部

	本部	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくてワークス	アットホーム	ぬくもりの郷
ぬくもりの家保護者会	1,884,000	36,720				
ぬくもりワークス保護者会	2,238,000					
まるくてワークス保護者会	3,218,000					
ぬくもりの郷保護者会	8,597,000					
保護者	100,000					
企業	133.996		8,846			
団体		25,000	10,000	40,000		
個人				10,000	100,000	
計（円）	16,170,996	61,720	18,846	50,000	100,000	

※神谷佐奈美様（ぬくもりの家時計台）

11.社会福祉充実計画の状況

社会福祉充実残高75,210,000円のうち職員の育成と新たな職員の雇用費用で16,800,000円の計画を立てたが、雇用が思うようにできず、5,598,000円にとどまった。

平成29年度末の社会福祉充実残高は108,410,000円となる見込みで、当初の計画より残高が20％を上回るため、安城市に変更承認申請を行う必要が生じる。

使途については、前年同様職員の育成と新たな職員雇用費とするため、変更しない予定である。

Ⅱ．ぬくもりの家

《総括》

法人理念のもと、「聴くことこそ最大の権利擁護」という言葉を大切に支援を行った。また、健康や安全を第一に考慮しつつ可能な限り「外へ出る」よう努めた。その中で、利用者さんの加齢による身体機能の衰えが随所に見られるようになってきた。6月に30代の女性利用者さんが亡くなったことはその象徴であるが、活動時間中に利用者さんが不調で静養を要したり、救急搬送されたりすることもあり看護師の存在が欠かせなくなっている。そのようなこともあって入院や長期欠席により利用者数や出席率が減っている。出席率は年間通して85.8%で前年比1%減であった。

またソフト面では支援員間の連携において課題が見えてきた1年であった。ぬくもりの家は3クラスに分かれているがそれぞれが独立していて全体感を持って支援するという空気が醸成されなかった。このことは利用者さんのご家族も感じられていたようだ。

課題が見えてきたということはやるべきことが明確になったということである。30年目を迎えた今後はクラス間の見えない垣根を取り払い、「挨拶」「笑顔」というあたりまえで大切なことを実行する原点回帰で利用者満足度を高めたい。

〈重点目標〉　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

１．権利擁護意識の向上

年間計画	取り組み	評価
研修に参加したり頻回にミーティングを行うことを通して権利擁護の意識を高めていきます。	虐待防止研修を全職員に対して行ったり、管理者は折に触れて権利擁護について伝えた。しかしその効果測定はできていない。	△
定期的な個別面談や日常のやり取りにおいて本人、保護者の思いを十分に傾聴します。また本人のニーズと活動内容がマッチングしているかどうかを常に振り返る姿勢をもちます。	個別面談時には傾聴の姿勢でニーズの聞き取りをしっかり行ったが、活動内容において家族との思いにズレがあることがあった。また、面談以外に家族と話す機会が少なかった。	△
ボランティアや見学者に対して権利擁護考え方を伝えて行く。	障害者虐待を例に毎回権利擁護について伝えた。	○

２．安心感が持てる体制の構築

個別支援計画は「本人中心」「ストレングスに着目」をポイントに作成します。	本人中心やストレングスを意識しているが全ての利用者の個別支援計画についてそれが反映されているわけではない。	△

インフルエンザ等の感染予防に努めます。出席率は92%を目指します。	予防衛生への意識の高まりと取り組みから利用者さんがインフルエンザに罹患することはなかった。ただ、長期欠席や入院等により出席率は85.8%で目標を大きく下回った。目標設定が高かった。	△
クラス別懇談会を実施し、個別面談ではつかみにくいニーズ把握に努めます。	懇談会を実施し、ニーズを聴き取ることができた。	○
施設内を「自由に見学していただける日」を年2回設ける。	施設参観日を2回設け、活動を見学していただくことができ好評であった。	○
活動プログラムの中で可能な限り意思決定支援を実現していきます。合理的配慮についても実践していきます。	意思決定支援については意識をしているものの活動プログラムの選択肢が十分と言えない。活動プログラムを見直す必要がある。合理的配慮についてはまだ浸透していない。今後、学びが必要。	△
理学療法士等の専門家を招き、機能訓練を行ったり健康増進を図ります。	定期的に専門家に訪問してもらい助言をいただきながらそれぞれに合った機能訓練ができている。	○
「外に出る」「外部の人と交流する」機会をもつことで少しでも世界を広げ、豊かな人生となるようサポートします。	積極的に施設外へ出かけることができている。特に毎週水曜日に近くの市民交流センターで行われる「ふれあい喫茶わくわく」（通称：わくわく喫茶）では地域の方々との交流の場となっている。	○
プログラムの中にリラックスのためのものを取り入れ情緒の安定につなげます。	年間を通して足浴を行っている。利用者さんの表情からリラックスできていることがうかがえる。	○
町内会、ボランティアネット北明治の会など地域とのネットワークを大切にすることで利用者さんが安心急いて過ごせる環境作りをしていきます。	祭りなどの行事や定期訪問を通じて密に地域の組織とつながることができている。	○

３．人材の育成・支援員のスキルアップ

朝礼終礼においてポイントを絞った情報伝達、意見交換を行い漏れがないように努めます。また、法人の提案制度を活用し「提案しやすい雰囲気」「前向きな提案が実現されやすい環境」をスタッフ全員で醸成していきます。	朝礼終礼においてポイントをしぼった情報伝達は行われたが、意見交換はほとんどなされなかった。担当クラスを越えて意見交換がされやすい土壌づくりが必要。また提案制度もほとんど活用されなかった。	×
活動や支援内容については常勤スタッフで合意形成の上、決定します。その上で情報の共有と支援の統一のため、決定事項は非常勤職員も含めたミーティングにおいてさらに合理形成を図ります。当然のこととして非常勤職員の意見や提案も積極的に取り入れます。	合意形成と情報共有については強く意識して努めた。また非常勤職員の意見を積極的に聞くようにはしたがそれを支援に十分反映できたかというと課題が残った。しかし常勤職員と非常勤職員との間でコミュニケーションがしっかり取れるようになっている。	△
個別支援会議は定期的に行い、その後の検証も行います。	個別支援会議やその後の検証は行われた。よりよい支援のためにはそれを会議の回数を増やし、内容を深める必要がある。	△
実習生の受け入れを人材確保の一環としても捉え、積極的に行います。また実習生に対する指導は担当者のみならずチームで行っていきます。	実習生の受け入れ、指導をチームで丁寧に行うことができた。実習生のうちひとりは非常勤支援員として定着している。	○

４．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(人)	男性	20	20	20	19	19	19	19	19	19	18	18	18	228
	女性	20	20	20	19	19	18	18	18	18	18	18	18	224
	計	40	40	40	38	38	37	37	37	37	36	36	36	452
出席率(%)		81.5	79.4	84.8	89.1	85.6	89.7	86.6	89.1	87.0	85.1	86.4	85.0	85.8

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

５．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	3	年度はじめの会
5	11	健康診断（半田医師会）
	26	ぬくもりチャレンジ運動会
6	6	いちご狩り
	23	嘱託医健診（歯科）
	15	芋の苗植え
8	18	納涼夏まつり
9	3	嘱託医検診（内科）
	22	お楽しみ会（ボウリング・カラオケ大会）
10	8	福祉まつり展示
	23,30	日帰り旅行(名古屋港水族館、なばなの里)
	25	芋掘り交流（雨天中止）
11	17	ぬくぬくふれあいコンサート（安城音楽協会）
12	8	クリスマス会
1	11	新年会　成人式
2	3	豆まき
3	8	嘱託医検診（内科）

月行事					
	誕生日会	外食実習	合同レク	音楽療法	合同カラオケ
	体重測定				

個別面談はサービス等利用計画に合わせて誕生月を基準に6ヶ月ごとに実施

６．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	31	大学・専門学校	1	社　　協	
北明治ネット	31	保護司関係	4	民生委員	14
ＪＡ青年部	6	高　校　生	7		
音楽協会	6	中　学　生		合　　計	95

７．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中　学　生	8	大　学　生	124	学 校 教 諭	
専門学校生	12	高　校　生	41	合　　計	292

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利 用 者 数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2

Ⅲ．ぬくもりワークス

《総括》

多機能型事業(生活介護、就労継続Ｂ型)から生活介護事業に事業形態を変更したことで事業所内での壁がなくなり、全員が余暇活動等を楽しむことができるようになった。さらに作業選択の幅も広がり、いろいろな作業にチャレンジする機会にも繋がった。これまで同様「働く場」として安定して働き続けられるよう継続的な支援に取り組んできた。工賃向上に取り組んでいるが、高齢化や重度化など作業効率が上がらない。目標工賃２万円に達するまでは、何らかの対策を検討したい。出勤率は、１月後半から２月上旬にかけてインフルエンザに罹患(12名)、糖尿病治療で１ヶ月入院(1名)、精神科に3ヶ月入院(1名)等の要因で達成できなかった。今年度も毎月課ごとに正職員と非常勤職員のミーティングを行い、利用者の作業や健康状態等情報共有をすることで安定したサービス提供ができた。

利用者の状況については、病気（精神疾患含む）や高齢化がより深刻化している。６月と３月に病気で２名が亡くなった。健康診断で指摘されていても「かかりつけ医がないから」「家族で連れて行けない」など通院されないケースが多い。今年度から希望者のみ嘱託医によるインフルエンザの予防接種を始めたが、本当に良いことなのか疑問が残る。

また、職員においては６月末と年度末に女性２名が退職した。理由はいづれも結婚のためであるが、５年未満の職員の離職が続いている。

日中一時支援は、法人利用者以外の方にもサービスを提供できるよう努めてきた。

【重点目標】　　評価：○(できた)・△(だいたいできた)・×(できなかった)

※利用満足度の向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み及び結果	評価
(1)意思決定支援を尊重するとともに、ストレングスを高められるよう具体性のある個別支援計画の作成と実践をします。	利用者のストレングスに着目した支援計画作成に心がけているが、アセスメントの見直しが不十分。	△
(2)健康管理と魅力ある活動の充実を図り、満足度調査(年１回)を実施して利用率の拡大につなげます。前年度の調査結果をもとにいただいた意見を取り入れ、改善に努めます。 ※目標出勤率・・９３％	体重・血圧測定、検温の実施など健康管理に努めた。インフルエンザ予防接種も希望者に実施した。健康診断結果も嘱託医に確認いただき、数値異常のある方には通院を促した。満足度調査は１月に実施した。出勤率→　90.7%	×
(3)作業種目と工賃規定の見直しを行い、工賃向上を目指します。 ※目標月額平均工賃・・15,000円	新たな作業を２種導入した。事業を１本化したため工賃規定や支給基準の見直しを年２回職員会議にて行った。 ※月額平均工賃・・・　12,446円	×
(4)関係機関と連携をして就労へ関心のある方には、就職に伴う生活面の課題に対応できる力を高められるよう努めます。	就職に結びついた利用者はいなかったが、就職を目指す利用者１名が相談支援事業所と連携して就労支援Ｂ型事業所に異動した。朝礼、終礼等で身だしなみや挨拶、マナー等の話しをする機会を設けた。	△
(5)「働く力」を伸ばしていけるような作業支援を心がけます。	施設外作業をとおして「働く」意識を高めた。	△

※地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

(1)恋塚まつりの開催や町内会行事、福祉祭りなどに参加して地域との連携を構築します。	9月に恋塚まつりを実施。町内会主催の行事に参加したり、ゴミ拾い交流会を実施して連携を深めた。	○
(2)民生委員やボランティア等を積極的に受け入れ、福祉に対する理解の促進を目指します。	希望があれば積極的に受け入れして説明をしているが、募集は積極的に行えなかった。豊田自動織機様の仲介で、大相撲の施設訪問を受け入れた。	△
(3)特別支援学校生徒の実習や見学者など積極的に受け入れ、開かれた施設を目指します。	生徒の職場実習の依頼があれば受け入れている。７月に3日間にわたり親子施設見学会(計32名)を受けた。	△
(4)行政や相談支援機関と連携して、地域福祉推進に協力します。	安城特別支援学校の依頼で福祉事業所の現状と障害者福祉に対する理解を深めることを目的とした職員福祉事業研修会を２日間(15名)引き受けた。	△

※人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

(1)社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れると共に、新たな人材確保と育成に努めます。	社会福祉士(1)介護福祉士(4)介護等体験(11)看護学生の実習(10)を受け入れたが、人材確保には繋がらなかった。	△
(2)必要に応じて支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加して専門性の強化をします。	てんかん基礎講座や福祉現場と専門職養成(日福大)つなぐフォーラム等の研修に参加したが、非常勤は参加機会がない。	△
(3)障害者差別解消法や障害者総合支援法、障害者虐待防止法等を理解し、権利擁護意識の向上に努めます。	障害者虐待防止法や権利擁護等の研修会に職員を参加させて意識を高めた。非常勤職員には毎月行っている課ミーティングフィードバック面接で伝えているが十分理解できていない。	△
(4)人事考課を強化することで、モチベーション向上につながるように取り組みます。	今までどおり人事考課及びフィードバック面談を行ったがモチベーション向上に繋がる取り組みはできていないが、必要に応じて職員面談を行った。	×

※組織運営体制の強化（マネジメントにおける基本姿勢）

(1)緊急時の対応やヒヤリハットなど定期的に会議を開催して、危機管理意識を高めます。	緊急時対応やヒヤリハットはすぐに会議を行っているが、他施設で起こった事故報告やヒヤリハットについては書類の回覧のみで会議は開催しなかった。	△
(2)職員全員で自己評価を行い、サービス評価と見直しを行います。	サービス評価を職員で分担して行ったが、見直しまではできていない。	×

(3)財政基盤を強化するために、予算作成をとおして職員のコスト意識を高めます。また、日中一時支援の受け入れを推進していきます。	予算計画は、職員が分担して作成することでコスト意識を持つことができた。日中一時は問合せや見学者はあったが、新たに利用を希望される方はいなかった。	△
(4)利用者の高齢化にともない介護保険サービス等との連携や施設体系を検討していきます。	身体能力低下のため１名がぬくもりの郷に移動した。まだ、介護保険サービスの連携までには至っていない	○

２．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(※1)	男性	39	39	39	38	37	37	37	37	36	36	36	36	447
	女性	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
	計	56	56	56	55	54	54	54	54	53	53	53	53	651
出席率（%）		92.5	91.9	91.8	91.3	94.1	94.8	91.9	91.6	92.3	81.3	88.0	87.1	90.7

（生活介護　89.8%）（就労継続支援Ｂ型　96.4%）

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

３．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	3	入所式
	8	~~県障害者スポーツ大会（日進市　日論議運動公園~~）→　雨天中止
	11	保護者会総会
5	10	健康診断(半田医師会)
	31	生活セミナー（講師　安城警察署巡査）
6	2	いちご狩り
	8	嘱託医検診（内科）
	13	赤松保育園とじゃがいも掘り交流会
	27	避難訓練
	28	大相撲　芝田山部屋施設慰問(豊田自動織機社会貢献推進室の紹介)
7	11	保護者会
	30	赤松町内夏祭り
8	8	施設参観(保護者)

9	9	恋塚まつり
10	1	安城市福祉まつり
	4	福祉協会ソフトボール大会（名古屋市守山区　小幡緑地）
	10	保護者会
	12	愛知県歯科検診
	21	~~安城市福祉体育祭~~　→　雨天中止
11	8	日帰り旅行２課（リニア鉄道館・川越電力館テラ４６）
	9	嘱託医検診（内科）・インフルエンザ予防接種
	15	日帰り旅行１課（リニア鉄道館・川越電力館テラ４６）
12	20	赤松町内美化交流会
	21	避難訓練
1	4	初詣
	19･20	赤松町内公民館祭り作品出展
	18	生活セミナー（講師　安城警察署巡査）
	24	お楽しみ会(カラオケ・ボウリング)
2	13	保護者会
	16	１課　工場見学(フジイ化工)
	22	２課　工場見学(スギ製菓)
3	2	赤松保育園ひな祭り会
	8	嘱託医検診（内科）
	21	ぬくもりアワード
	29	避難訓練

月行事					
	音楽療法	生け花	スポーツ	書道	体重測定
	血圧測定	外食(不定期)			

４．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　般	60	民生委員	16	高校生	42
保護者	2	大学生	14	生け花	22
赤松町福祉委員等	23	恋塚まつり	48	合　計	227

５．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中学生職場	1	大　学　生	79	学 校 教 諭	6
特別支援学校	0	高　校　生	48	看護専門学校	20
慈恵福祉保育	6			合　　計	160

６．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高（円）	内　　容
富士カーボン（株）	642,180	自動車部品の加工
フジイ化工（株）	112,635	エコキャップ選別
タクマ産業（有）	990,401	自動車部品（ウレタン）選別
名鉄百貨店	161,969	販促商品梱包作業
アンジョウハーツ（商工会議所）	125,820	キャップパネル梱包・商品梱包等
安城七夕まつり協賛会	109,800	ペットボトル洗浄・処理
自主製品	205,810	縫製品製造・販売
菓子製造（パウンドケーキ）	836,265	菓子の製造・販売
名刺印刷	34,778	名刺の印刷
アルミ缶販売（安城貿易）	4,200	アルミ缶回収
西三河セルプ	4,318	委託販売
ユニオンサービス・日本ハム	242,716	委託販売（日本ハム、カレンダー）
まるくてワークス商品	8,800	委託販売（かりんとう・珈琲豆）
（株）フォーユー商品	236,940	委託販売（マカデミアナッツボール）
ナカムラ製菓	748,640	委託販売（せんべい）
安城市（清掃事業所）	94,735	段ボールコンポスト製造・販売
安城市（清掃事業所）	2,924,100	ＥＭボカシの製造・配達
（有）ミット	8,920	縫製品梱包作業
農作物	90,530	農作物の販売
（株）フォーユー	115,648	ナッツボール袋入れ
グレイシャスビラ安城	189,520	お風呂・ベランダ掃除
その他	40,200	七夕短冊・施設カレンダー
サンブロードケミカル	92,380	自動車部品拭きあげ作業
ミカテック	140,400	軽作業

杉本商会	174,100	販促商品（ゴミ袋）封入作業
安城市（清掃事業所）	11,481,309	ペットボトル仕分け作業
安城市（維持管理課）	36,000	リサイクル自転車の清掃
デンソー（株）高棚製作所	95,000	エコキャップパネル作成
合　　計	19,948,114	

７．工賃支給実績

《生活介護》

４月～３月工賃支給額計　　9,421,709円

１ヶ月平均工賃支給額　　12,446円（１人当たり・賞与含む）

８．日中一時支援事業

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	24	17	22	19	22	19	19	19	18	19	16	18	232

Ⅳ．まるくてワークス

《総括》

安城･岡崎両特別支援学校より卒業生３名を迎え､利用者54名の生活介護（生産活動型）事業をおこなったが、利用契約はしているものの利用できていない方・長期入院の利用者さん等が４～５名おり、年間利用実績は減となった。一昨年休止した「まるくてBang！Bang!まつり」を10月に復活させ、大村知事をはじめ多くの来賓にも足を運んでいただいた。

事業内容として新たに体力測定を外部の作業療法士と共に行い、利用者さん一人ひとりの筋力や状態・姿勢等を測定し、日々の活動時に配慮・見守りをしていく箇所を習得した。これを毎年行うことで、体の動きの中で歪みや衰えが発見できればと思っている。また、利用者満足アンケートで要望があった作業種目も1つ増やし、余暇活動でやりたいことを利用者さんに決めてもらう「まるくて選挙」を初の試みとして行い「買い物に行こう」が選ばれた。地域交流としては、池浦福祉委員の皆さまが第２第４月曜日に行っている「ほっとサロン」に１００円を持参し出掛け、地域の方々とのふれあう機会を設けた。

【 重点目標 】　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

１．利用者満足と支援の質の向上

年　間　計　画	取　り　組　み	評価
本人の意向を尊重した個別支援計画を作成し「いきがい」と「しあわせ」を感じられるよう支援にあたります。	サービス等利用計画に沿って個別支援計画の内容を利用者が解りやすく具体的なものにした。	△
利用者満足を高めるためアンケートを実施し日中活動に反映させていきます。	アンケートを実施し、次年度の事業計画案に反映させた。	○
本人の希望するサークル活動や作業を選択することで、日中活動の時間をいきいきと過ごせるよう努めます。	各課朝礼時に選択する機会を設けたが、取引先企業の都合で強制的に作業することもあった。	△
利用者さん相互の関係性や個性に配慮し、できるだけ快適で安全な環境を整えます。	作業室の構造化や食事時間の時間差を設けできるだけ快適にした。	△
職員は「虐待はしない、させない」を合い言葉に、風通しの良い働きやすい職場環境を目指します。	非常勤も含めた各課のミーティングを定期的におこない虐待防止研修にも参加したが全員ではない。	△
研修会等には積極的に参加をし、学んだことを職場にフィードバックすることで専門性を高めます。	市内の研修会場であれば非常勤職員も参加させたが、常勤を含め報告書の回覧で終わることがほとんどであった。	×

２．地域との連携の推進と強化

「まるくてBang！Bang!まつり」を復活し、地域に根ざした施設づくりを構築させます。	10月に第11回まるくてBang！Bang!まつりを開催した。	○
民生委員やボランティア等を積極的に受け入れ、障害福祉の理解を促進するとともに風通しの良い開かれた職場づくりを目指します。	ボランティア受け入れ状況は年間300名を超えており、ほぼ毎日地域の方が作業ボラにも来ている。	○
地域行事等にも販売や展示など積極的に参加をし、知名度と連携を強化していきます。	年間50を超える自主製品販売と池浦町・中部公民館での文化祭に利用者さんの作品展示で参加した。	○
地元町内会の行事等では、施設を町内の資源として利用していただきながら第２･第４月曜の「ほっとサロン」に参加していく。	池浦町敬老会・芸能祭・子供会の資源回収の場として施設を開放し年間を通して「ほっとサロン」にも出掛けた。	○

３．安定した運営を目指す

利用者さんの適正な支援区分への見直しを引き続きはかります。	支援区分認定調査において、障害特性と配慮について説明した。	△
魅力ある活動と「ぬくもり」のある支援を提供し利用率が９割以上となるよう努めます。また、日中一時支援も積極的に受け入れて行きます。	ほとんど利用できていない利用者さんが４～５名おり、利用率は下がったが、日中一時支援は189名（前年比150%）の利用があった。	△
休日の販売や地域イベントに利用者さんと共に参加をしていきます。	保護者さんの理解のもと、休日の販売会参加も利用実績１日と換算し請求した。	○
遵守事項を守り、コスト意識を持って業務にあたります。	些細なことだが、電気のつけっぱなしや工具や作業道具の欠品がしばしばあった。	×

【生活介護事業】

１．年間利用実績　　前年度実績（87.6%）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(人)	男性	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
	女性	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
	計	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	648
出席率（%）		88.2	86.7	86.9	85.8	84.9	88.6	85.1	89.7	88.0	84.9	89.0	85.7	86.9

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．保護者との連携

（１）３ヶ月ごとの保護者会開催 ～ 安城市社協　樅山譲一 氏　成年後見制度について

静岡大学教授　香野　毅 氏　情動調整からの支援

（２）年２回の三者面談（モニタリング）をとおして利用者本位の支援の連携強化。

３．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	3	入所式（３名）
	11	保護者会総会
	24	そよ風コンサート（ぬく郷）
5	9	健康診断（半田医師会）
	23	避難訓練
6	6	いちご狩り（鈴木農園）
	15	嘱託医検診（内科　藤井ハートクリニック）
7	14	保護者会
8	16	体力測定（測定項目～作業療法士作成）
9	5	アンサンブルドルチェ演奏会
	22	日帰り旅行（ラグーナ蒲郡）
10	17	保護者会（勉強会～成年後見制度）
	22	県フットベースボール大会（6年連続優勝）
	26	県歯科診療
11	9	嘱託医検診（内科）インフルエンザ予防接種
	17	ぬくぬくふれあいコンサート（昭林公民館）
	20	体力測定　（測定項目～作業療法士作成）

	23	池浦町文化祭 作品出展
	28	名フィルコンサート（刈谷）
12	25	クリスマス会（ヤマザキパン～ケーキ寄付）
1	4	初詣（池浦天満宮・安城神社）
	9	保護者会（勉強会～情動調整からの支援）
	11	成人を祝う会（１名）
	19･26	新年会（ボーリング＆焼き肉）
2	27	避難訓練
3	9	まるくて選挙投票
	30	年度末反省会

月行事	お楽しみランチ	サークル活動	体 重 測 定	血 圧 測 定	歩 行 ・ レ ク
	ほっとサロン	アピタ販売（第２水曜）		市役所販売（年３回）	

４．ボランティア受入状況（延べ人）　前年比(309人) ９８％

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	204	中高大学生	15	専門学校生	0
池浦福祉委員	5	サークル講師	73	民 生 委 員	10
				合　　計	302

５．実習生受入状況（延べ人）　前年比(187人) ９０％

区　分	計	区　分	計	区　分	計
専門学校生	35	大　学　生	76	養 護 学 校	10
高　校　生	48			合　　計	169

６．授産事業

（１）作業指導のねらい

利用者個々の能力と適応性に応じた作業の技術習得と「はたらく」ことからの喜び・生きがいを実感できるよう支援した。

（２）工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。

７．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高（円）	内　　容
コーヒー豆	1,034,123	自家焙煎珈琲製造販売
山田製菓	1,421,995	かりんとう・ドーナツ販売
自主製品販売	200,962	布草履・座椅子など
サカキバラコーポレーション	114,027	バリ取り
大見工業	557,500	チップソー防錆液添付・箱詰め
ケーエス開発	633,600	ロート
安城市清掃事業所	324,000	土嚢袋
増田煙火	154,965	花火組み付け
安城市指定ゴミ袋販売	581,130	燃やせるゴミ袋等
タクマ産業	476,555	ダクトシール貼り・パッキン
シン英鋼業	10,510	アルミ缶
稲徳煙火	143,609	花火組み付け等
銀のさら	14,394	袋詰め
玩具	44,580	おもちゃ等販売
セルプ	3,805	共同販売
コミュニティー道路清掃	39,100	池浦町内道路清掃
杉本商会	84,040	新聞店サービス品（袋詰め）
その他	91,246	DM封入･豚と狐置物等
合　　計	5,976,181	

８．工賃支給実績

《生活介護》

４月～３月工賃支給額計(賞与２回含む)　　2,764,463円

１ヶ月平均工賃支給額　　4,266円（１人当たり・賞与含む）

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）特別支援学校生や在宅又は就労等している障害者の平日の日中における活動の場を提供し、簡単な相談を受けながら情緒の安定と本人の居場所を作るとともに家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）　前年比(119人)　１５９％

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利 用 者 数	19	25	26	23	19	15	11	11	9	9	8	14	189

Ｖ．アットホーム

《総括》

前年度に比べ非常勤職員化が色濃くなった中でのスタートであった。6月にはホームぬくもりの利用者さんがご病気により亡くなるという悲しくつらいこともあった。法人内の他ホームに移られた方が２名、新たに利用をされた方が2名と動きの多い年でもあった。

しかしながら保護者、スタッフやバックアップ施設の協力により1年を無事乗り切ることができた。特にフルハウスは3名の学生も含め5人ものスタッフが離れることになり一時的に戦力ダウンしたもののスタッフ間の協力により何とか今までのように稼働することができている。

当初の予定通りできたこと、できなかったことがあるが29年度の反省を踏まえ更にレベルアップした支援ができるよう努めていく。

１．〈基本方針に対しての総括〉

年間計画	取り組み	評価
利用者がつなぐ「絆」を大切にしていきます。	利用者同士が互いの時間や空間を共有するまたは個人で過ごしたい時間をもてるよう配慮した。クリスマス会などの行事では保護者やスタッフも参加して盛り上げ、中には近隣の知り合いの方も参加して楽しいひとときを過ごすホームもあった。	△
利用者が「地域で自分らしく安心して笑顔で暮らすことができる」支援と、保護者様が「わが子を安心して地域へ託すことができる」　環境作りをしていきます。	毎日ホームで過ごせることが自分らしく将来的に安心して暮らせることに通じるものと考える。様々な都合で利用できない日が続く利用者もいらしたが、家庭とのつながりを保ちながらいつでも安心して利用できるよう配慮した。	△
利用者を中心とする関係者の連携構図をイメージし、ご本人の求める「自由で自分らしい生活」をチームで支援していきます。	ご家族や相談支援事業所、日中支援事業所と連携し個別面談などを通して本人の「気持ち」を尊重しながらできるだけその思いに近づけるよう努力をした。	△

２．〈重点目標に対しての総括〉

（1）自分らしい暮らしの支援

日頃から利用者様のストレングスに着目した支援をしていきます。また、個別支援計画にも本人の持つ個性やストレングスを盛り込み、それを活かして自分らしい生活ができるよう支援していきます。	個別面談を通して利用者個々のニーズを把握し本人が取り組みたいことを大切にしながら無理のない範囲において実現できるよう支援した。そのことが家庭を離れての暮らしの中で自立心を養う効果も見られた。一方、親御さんへは心配がないよう取り組みの趣旨や本人のやる気など今一層の説明をする配慮が必要を思われる。	△
日中施設や相談支援と連携し、本人を深く理解しようとする支援体制を構築していきます。	年度の途中から相談支援を中心に本人の生活全般を見据えた支援体制に切り替わることができた。相談支援と共同生活援助との目標設定がしっかりリンクするような仕組みが形としてはできつつある。個別面談時のみでなく必要に応じてバックアップ施設やご家庭との連携をとることができた。今後もより円滑に関係性が保てるような取り組みを継続する。	△
地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民の方々とふれあえる行事を企画したり、地域の行事に積極的に参加します。	一部のホームで地域の防災訓練への参加をすることができた。日中施設での防災訓練では体験することのできない企画に参加し、利用者自身も防災意識への刺激を受けたものと思われる。	△
季節に応じた食事やイベントを通じて、豊かでぬくもりある生活ができる環境を提供します。	外食や誕生日会、またクリスマス会など季節に合わせたお楽しみ行事を企画し普段のホーム生活の中にも若干彩りが加わり利用者や保護者にも楽しんでいただけたと思う。今後も利用者のニーズを把握しより豊かな生活環境となるよう配慮が必要と思われる。	○
利用者の立場に立ちながら、支援者自身も「自分が住みたい」と感じられるホーム環境を作り上げます。	業者によるエアコンの内部清掃を行った。長年の汚れが溜まりひどく汚れていたので今後は利用者の居室、リビング・世話人室のエアコンも清掃していきたい。	△

（2） 安心感のある運営体制の構築

より質の高い個別支援計画によるサービス実践により満足度を高めます。このことがひいては利用率のアップにつながり安定した財務基盤につながると考えます。	本人・ご家族の意向を尊重し、また相談支援事業所や日中支援事業所との連携を通して可能な限り本人の希望する生活ができるよう配慮した。支援について、ご家族からの要望等があったときには速やかに対応した。	△
かねてよりニーズのある、「土日稼働」するにはどのようなやり方があるのかを年間を通して研究していきます。他法人事業所から情報収集します。	めろんぱんにおいては前年度から引き続き日中の時間帯を除き土日の稼働を行ってきた。29年度はスタッフの確保もでき、ゴールデンウィーク中は日中を除き稼働した。また夏期休暇や年末年始休暇については 前年度より稼働日数を増やすことができ、より365日化に近づくことができた。	○
サビ管とスタッフ間の報・連・相を徹底し情報が円滑に伝わるよう努めます。またその方法を探求していきます。	毎週金曜日に常勤スタッフが顔を合わせて情報交換する「フェイスタイム」を行い近況報告や連絡事項などを共有した。また世話人などの非常勤スタッフについては月1回のミーティングを通して情報共有を行ってきた。	△

（3） 人材の確保と育成

世話人やスタッフが心身共に健全で安心して業務にあたるため、現状の課題把握に努め、改善策を考えていきます。	サビ管は不測の事態に備えていつでも動ける態勢でいることがスタッフの安心につながることは十分に理解していたが、実際にはサビ管も宿泊支援もこなす中では困難なこともあった。できうる限り各ホームへ訪問することによりスタッフの要望等をリサーチしてきたが今後はさらに細かくフォローしていくことが必要と思われる。	△

利用者が安心してチーム支援を受けられるようにスタッフの育成を続けていきます。	フェイスタイムや月に1回のミーティングを通して情報共有や悩みごとなどに対応してきた。ただしその中で各人の本心が発信できたかまたは聞き出せたかは不十分であったと実感する。スタッフが参加した研修の報告書等は回覧で確認しているが、それが実際の支援にどの程度プラスになったかは不明である。	△
安城市自立支援協議会と協働して、支援者を育成するための講座を開催します。またホームに関する啓発活動を通じて人材確保にも努めます。	安城市自立支援協議会のホーム担当者会と協働して7月に慈恵福祉専門学校の学生に向けてグループホームについての出張講座を開催した。ただし、この出講講座を通してスタッフ採用につながった者はいなかった。また3月に行う予定であった地域の一般向け講座は参加者が集まらず開催ができなかった。	△

３．年間利用実績　（体験利用含む）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍数者(人)	男性	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	153
	女性	4	4	3	3	3	3	3	4	6	5	3	4	48
	計	16	16	15	16	16	16	16	17	19	18	16	17	198

４．住居ホーム（定員18名）

（１）めろんぱん　　（定員４名）安城市柿碕町
（２）ホームぬくもり（定員４名）安城市大東町
（３）フルハウス　　（定員５名）安城市池浦町
（４）こやまホーム　（定員５名）安城市新田町

Ⅵ．ぬくもりの郷

《総括》

ぬくもりの郷は、利用者の生活を総合的に支援することを目的とした事業所であり、本来別の事業である生活介護事業、共同生活援助事業、短期入所事業、日中一時支援事業が有機的に連携できる仕組みづくりに努めてきた。生活介護事業は、安定して通えるようカリキュラム等の支援内容の工夫に努めたが、年度途中各1名の増員と減員、月単位で入院された利用者があり、出席率は88.6％の利用となり、前年比4.1％の減となった。

生活介護事業所の他の事業も、支援内容、職員の勤務シフト等も一定の形になってきたと思われるが、利用者の重度高齢化に対処しきれていない場面も見られた。今後はその利用者の変化に伴うサービスの質の低下を招かないよう、利用者満足度を常に意識しながら、基本理念に基づいた支援体制の充実をさらに図りたい。

新たに、安城市の地域生活拠点等の緊急時の短期入所での受入先の一つとなり、公益的なセーフティネットとしての役割を与えられ、55件の利用があった。以前から緊急時には受入先となってきたが、ますます需要が増えることが予想されるため、より安心できる体制を整えていくことが求められる。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権を尊重し、個人の尊厳を守ることの重要性について認識が深められるよう研修等を通じて、虐待防止法など社会的ルールの遵守の普及・啓発に努めます。	虐待防止について常勤職員を対象に定期的に啓蒙してきたが、非常勤職員に対して行わなかった。	△
職員の連携不足からくるケアレスミスをなくし、これらのサービスの提供をより安全に行うため、情報が職員に浸透共有ができるような運営をしていきます。	事故報告が51件と前年度に比し倍増しており、事故報告書の反省が活かされず、共有が十分でなかった。	×
今後のサービスの拡充、緊急利用に対しての対応を的確にできるよう、質の高い人材の教育、育成に取り組みます。	支援のみならず介護技術の向上を図るよう取り組んできたが、本人のやる気任せだったところがあった。	×
グループホームにおいて、訪問看護ステーションと契約を結び、夜間帯、有事の際のオンコールに対応できる体制にしており、さらなる連携を深めていきます。	利用者の状態を適切に訪問看護ステーションに伝えることできず、うまく医療機関へつなげることができなかった。	×
現在のサービスが的確に行われているか確	利用者満足度調査は、前年度同様	

認するため、利用者満足度調査を実施します。また、平成２８年度に受審した福祉サービス第三者評価の結果を振り返り、サービスの質の向上に努めます。	行い、ほぼ満足しているとの結果になった。保護者に対し、給食の試食会を実施し、好評だった。	△
作業療法士等との連携により機能訓練をカリキュラムに取り入れＡＤＬの維持・向上に努めます。	定期的に作業療法士による機能訓練を実施し、可動領域の維持などに努めた。	○
利用者の個別的状況に配慮しつつ、その人に合ったカリキュラムを提案して実施します。	音楽療法を新たにカリキュラムに加え、本人が好まない活動には工夫し別メニューを提供した。	○

（２）地域との交流と連携

地域交流広場の活用、作品展、イベントの開催等、地域に開かれた施設作りに取り組みます。	作品展、感謝祭は前年度同様行い継続は力なりと感じた。地域交流広場の存在がアピールが足らず、活用が十分にされなかった。	△
実習生・職場体験等の学校教育への協力、ボランティアの育成、地域住民との交流等を通じて、地域の福祉に対する理解を促進し、地域における福祉文化の醸成に取り組みます。	実習生等の受入は前年度同様行っており、その都度実習生に感想を聞き、知的障害者福祉への理解の深まりを感じることができた。	○
安城碧海看護専門学校の実習受入先となり、医療と福祉との連携に寄与していきます。	受入２年目となり、目的に合った実習になっているか検証を行い、次年度につなげることができた。	○
災害支援等、行政との適切な連携のもと、福祉避難所の取り組みの備え等、地域住民の安心・安全確保に努めるとともに安城市と連携して事業継続計画の策定と見直しを行います。	特定福祉避難所に続き、安城市と災害時における人的支援に関する協定を結び、安城市及び地域との連携がより強まった。	○

（３）人材の育成・確保

労務管理における責任体制を明確にし、適正な労使関係の構築に努めます。将来的な年次有給休暇の取得義務化に備え、有休の	シフト制で不規則になりがちな勤務をなるべく職員に希望に添えるような勤務体制作りに努めた。	△

取得しやすい職場環境づくりに努めます。		
非常勤職員についても、労働関係法令の遵守、働きやすい職場環境の実現に努め、必要な研修の実施を行い、非常勤職員の動機付けを意識しながら戦力化をめざします。	非常勤職員に対して面談を行い、意見の集約に努めた。研修の参加が勤務上困難なため実施ができなかった。	×
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置づけるとともに、一人ひとりの職員の成長段階に応じた仕事量の配分とそこで必要となる教育、研修の実施を行います。	支援のみならず介護技術の向上を図るよう取り組んできたが、本人のやる気任せだったところがあった。	×

（４）安定した財務基盤の構築

財務諸表等に基づく経営分析等により、稼働率、人件費率など事業の運営状態を適切に把握し、適切な収益性の改善に繋げます。生活介護事業の稼働率は９０％を目指します。	利用者満足度を高めつつ、稼働率を増やせるよう取り組んだが、長期入院等もあり、稼働率は88％となり、前年度を下回った。	×
現在の報酬体系の理解、利用者の支援区分の把握、介護保険制度との連携を通じて、適切な収益性の確保に向け、その事業の将来性、継続性を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行います。	現在の報酬体系で、加算のとれるものは積極的に取り組みを行った。介護保険制度との連携まではできなかった。	△
限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い運営管理を実現するため、職員全体のコスト意識を醸成するための取り組みを行います。	事業計画書の作成を通じて、予算管理の重要性を理解できるようにしたが、職員全体には周知が足らなかった。	△

《生活介護事業》

※（　）昨年度実績

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(※1)	男性	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	112
	女性	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	72
	計	15	15	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	184
出席率（%）		95.3	94.9	86.3	91.1	88.9	94.4	92.2	84.8	80.0	82.6	86.1	86.8	88.6

※１．在籍者数は初日在籍数　　(92.4)

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事　※（　）実施日

月	施　設　行　事				
5	健康診断（15）				
6	いちご狩り（1）感謝祭（4）歯科検診（15）				
7	避難訓練(19) 電車利用体験(20)				
9	アールブリュット展出品・見学(15) 福祉コンサート(27)				
10	日帰り旅行・エアパーク&うなぎパイファクトリー（20）　避難訓練(24)				
11	福祉コンサート(28) 内科検診・インフルエンザ予防接種(30)				
12	ボッチャ大会(9) 保護者会合同クリスマス会（22）				
1	新年会・ボウリング・カラオケ（12）				
2	ぬくもりの郷作品展（2/28-3/5）				
3	内科検診（15）避難訓練(27)				
月活動	誕生日会	外食	チャレンジスポーツ	アート書道	音楽療法
	リラクゼーション				

３．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　般	21	大学・専門学校	12	サークル講師	6
民生委員	12	高校生	2		
				合　計	53(58)

４．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	合計
社会福祉士実習	47	介護等体験実習	88	135(147)

《共同生活援助事業》

１．事業内容

（１）利用者が自立を目指し、地域において共同生活を営むことができるように個別支援計画を作成し、それに基づき世話人等より生活する上で苦手な部分（食事や健康管理等）の支援を受け、安心して生活できるよう努めた。

（２）地域とのつながりを大切にするため町内会に加入し、町内ふれあい夏まつり、町内運動会、町内一斉清掃、防災訓練等の地域が開催する行事に積極的に参加するなど地域住民と理解を深めるよう努めた。

２．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍数者(人)	男性	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240

(228)

《短期入所事業》

１．事業内容

（１）居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者に対し、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて必要な支援を行った。

　主には「家族の入院」「家族の不幸」などの緊急時対応と「将来に向けて宿泊訓練がしたい」という希望、さらには「家族の介護負担の軽減」のニーズがあり、なるべくニーズに応えるよう努めた。

（２）グループホームとの併設型であるため、グループホーム利用者の生活の安定を優先し、受け入れも安全面を十分に配慮するように努めた。

２．利用実績（延べ人）

事業所名	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくてワークス	ぬくもりの郷	一般	計
利用者数	187	117	94	14	4	416(413)

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	229	215	186	225	202	195	189	182	183	169	156	156	2,139

(2,321)

Ⅶ．相談支援事業所　ぬくもり

《総括》

前年度より、法人内各事業所で年に２回実施している利用者・保護者面談に相談支援専門員も同席してきたが、今年度もその形式を継続してきた。そうすることにより、利用者の支援方法の統一と事業所のサービス提供内容の把握ができ、支援の基［素］となるサービス等利用計画と、実際のサービスを提供する現場の個別支援計画の内容が連動しつつある。２８年度及び２９年度は、従来の面談方法の中で実施してきたが、今後はサービス内容の更新時には法人内の事業所だけでなく、その利用者が利用している外部のサービス事業所にも出席を呼び掛けて、その人に関わる支援機関が一堂に会し『サービス担当者会議』として機能させ、情報を共有し、相互に支援内容を確認・統一することでより良いサービス提供に繋げていきたい。

法人内利用者の状況においては、年齢を重ねるごとに障害も重度化したり家族による介護も困難になってきたりなど、支援が困難化してきているケースが顕著に出てきている。法人外利用者の状況としては、利用事業所やサービスの提供内容が定着せず、一相談支援事業所では問題解決に至らないようなケースが増えてきている。今後も、市内の相談支援の軸を担う基幹型相談支援事業所との連携強化がより一層求められる。

１．契約者数（人）

		平成29年3月末	平成30年３月末
法人内利用者①		151	150
内訳	ぬくもりの家	３６	３５
	ぬくもりワークス	５２	５２
	まるくてワークス	４７	４７
	ぬくもりの郷	１５	１５
	アットホーム	1	1
法人外利用者②		８３	８４
合計（①＋②）		２３４	２３４

（１）変動理由

ア．法人内利用者

・法人外事業所に移動（1名減）

イ．法人外利用者

・福祉サービス利用が再び必要となった（1名増）

研修参加

・愛知県相談支援従事者現任研修

平成29年7月2日、7月21日、8月17日（岩崎・鈴木）

・NSK東海・北陸ブロック研修会（愛知大会）
平成29年8月19日～20日（林）
・障害者施設部会サービス管理責任者研修
平成29年12月1日（林）
・愛知県福祉サービス第三者評価調査者養成研修
平成10月27日～29日、11月6日、12月3日（岩崎）
・障害者支援担当者研修会
平成29年12月22日（岩崎）
・第18回愛知県知的障害関係施設職員等研究大会
平成30年2月8日～9日（林）

自立支援協議会　相談担当者会

4月25日（火）
・29年度の年間予定
・29年度のテーマの進め方　①相談支援の連携
②地域包括ケアシステムについて
・入院時連携シートについて

5月16日（火）
・地域包括ケアシステムについて
・入院時情報連携シートについて
・子供発達支援センターについて

6月20日（火）
・「地域包括ケアシステムについて」進め方

7月19日（火）
・地域包括ケアシステムについて

8月22日（火）
・地域包括センターとの交流会について
・保育所等訪問支援事業の支給量について

9月20日（火）
・事例検討事例の振り返り
・地域包括支援センターとの交流会について
・作業部会「送迎についてのアンケート」について

10月17日（火）
・スキルアップ研修会について
・地域移行・地域定着研修会について
・地域生活支援事業のみプランの請求について

11月21日（火）
・本会議報告
・例外支給時の同一敷地事業所問題について
・地域包括支援センター交流会の振り返りと今後の進め方
・勉強会「支援経過記録の書き方」

・今年度テーマの振り返りと来年度テーマについて
・新規事業所紹介
・各担当者会に依頼（平成27年度）したテーマの進捗状況
・サービス終了時のモニタリングについて

12月19日（火）
・今年度テーマのまとめと来年度テーマについて
・地域課題（平成27年度）の進捗状況について
・平成30年度の会長・副会長と開催日程について
・入院時情報連携シートについて
・ヘルパーの生活援助の取り扱いについて

1月16日（火）
・来年度テーマについて　①相談支援事業所の連携
　②相談支援技術の向上
・平成30年度の会長・副会長
・入院時情報連携シートについて

2月20日（火）
・来年度のテーマについて　①地域包括ケアシステムについて
　②地域資源の把握・活用について
・来年度の勉強会について
・新規事業所について
・平成30年改正について
・事業所情報について
・ぼちぼちカフェの営業時間について

3月20日（火）
・例外支給の申請書類について
・地域課題の取り組み状況報告
・例外支給者リストについて
・事業所データについて

相談担当者会　勉強会

5月24日（水）　スキルアップ勉強会
「サービス担当者会議の進め方」
講師　医療法人　愛生館　しんかわ介護サービスセンター
磯村　直美　氏

10月17日（火）　地域共生社会の実現に向けた交流会
テーマ　「高齢福祉と障害福祉の連携について」

10月19日（木）　スキルアップ研修会
「支援経過記録の書き方について」
講師　医療法人　愛生館　しんかわ介護サービスセンター
磯村　直美　氏

Ⅷ．安城市虹の家

《総括》

安城市の指定管理を受託して１年目。運営主体と職員が変わったことで、利用者が混乱することなく安心して利用できるように、前任者（社会福祉協議会）の日課や支援方法、活動面など継承したカリキュラムを心がけた。一部作業種目の変更とぬくもりワークスから移管した施設外作業（有料老人施設のお風呂掃除）を導入したが、戸惑いはありながらもゆっくり定着し、その影響もあってか２名を就労に結びつける事ができた。今後も利用者の希望に寄り添いながら支援を続け、徐々にぬくもり福祉会の特色を活かせた。

施設は、老朽化が進んでおり、照明器具やオーブン等の機器の故障、雨漏り等で修繕を要する箇所が多く、その度市役所と協議してきたが、予算などの関係で対応していただけないことも多々あり「指定管理」の難しさを感じたが、今後も市役所と連携を保ち良好な関係を築いていけるよう努めたい。

１．【重点目標】　　評価：○(できた)・△(だいたいできた)・×(できなかった)

※利用に対するサービスの向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み及び結果	評価
(1)サービス向上策として、まずは利用者とコミュニケーションを深めます。面談をとおしてニーズを把握し、ニーズに即した新たなプログラムを取り入れるなど、より快適で安全な環境を整えて、作業を意欲的に取り組めるよう努めます。日常生活面に課題をもっている方には、相談支援事業所と連携を取って課題の改善を支援します。	日々の作業以外にも誕生日会や季節の行事をとおしてコミュニケーションを深めたり、カラオケができる環境を整備し、余暇時間の充実を図った。 倉庫がないため、完成品を保管する場所の確保と車いすの方の移動と作業しやすい配置に変更した。個別面談を通して相談員や保護者と情報共有した。	△
(2)利用者からの意見を反映するために、サービス満足度調査(年１回)を実施してサービスの質の向上に努めます。また、意見を言いやすい環境を整備するために、利用者の自治会組織や保護者会組織を提案します。	２月に満足度調査を実施した。 自治会及び保護者会については、提案したが実現できなかった。保護者には活動経過報告会を開き、意見交換できる機会を3回(4月、8月、3月）設けた。	△
(3)作業種目を見直しを行い、施設外作業を取り入れるなど作業選択の幅を広げ工賃向上を目指します。 ※目標月額平均工賃・・・・10,000円	有料老人施設のお風呂掃除やカーボンブラシの箱入れ作業、ゴミ袋封入作業など新たな作業を取り入れたが、工賃については、クッキーの減収分はカバーできなかった。 ※月額平均工賃・・・9,821円	×
(4)就職するために必要なスキル･マナーの向上に努め「働く」ことへの意識を高めます。	12月3月に就労セミナーを実施した。「社会人として必要な会話のマナー」について学んだ。就職した先輩からの講話を伺う事もできた。元々持っていたスキルもあり就職者２名につなげる事ができた。	○
(5)自立支援協議会の就労担当者会に参加して、事業所間の連携を深めます。	会議への参加や自立支援協議会実施の事業所連絡会にも参加した。	△

※地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

(1)利用者の方と福祉祭りに参加して施設製品等の販売をするなど地域との連携を深めます。	19箇所に及ぶ販売会に参加した。利用者の方と一緒に施設製品の販売や販売に必要な挨拶の大切さを一緒に学んだ(利用者参加8箇所)。	△
(2)地元町内会との関係を深め、福祉に対する理解の促進を目指します。	城南町内会まつりに参加したり、子供会、学校のリサイクル活動への協力した。	△
(3)特別支援学校生徒の実習や見学者など積極的に受け入れ、開かれた施設を目指します。	特別支援学校から実習生を受け入れた。見学者も40名対応した。今後も要望があれば順次対応していく。	△
(4)行政や相談支援機関と連携して、地域福祉推進に協力します。	安城市と毎月定例会議を実施し業務報告や改善要求を行った。相談支援機関とは連携しているが、地域福祉推進までは至っていない。	△

※．人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

(1)積極的にボランティアを受け入れ、新たな人材確保と育成に努めます。	前任者の時から個人限定のボランティアが継続されている程度で、人材確保や育成はできなかった。	×
(2)必要に応じて支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加して専門性の強化をします。	研修参加後には報告書を作成し、報告会を通じて情報共有した。頻度は少なかったが職員ミーティング実施し支援の統一を図るよう努めた。	△
(3)条例等関係法令を遵守し、権利擁護意識の向上に努めます。	セルフチェックシートを用いて虐待とならないような支援に心がけた。	△
(4)人事考課を強化することで､モチベーション向上につながるように取り組みます。	全員にフィードバック面接を行い表出しにくい課題について掘り下げるよう努めた。	△

※．組織運営体制の強化（マネジメントにおける基本姿勢）

(1)緊急時の対応やヒヤリハットなど定期的に会議を開催して、危機管理意識を高めます。	消防の防火管理体制はあるが、各自の役割等を明確にする場をもっと設ける必要があった。	×
(2)職員全員で自己評価を行い、サービス評価と見直しを行います。	自己評価は各自で取り組んだあとにすりあわせを行った。まだまだ不備・不足している点がある事に気がついた。	△
(3)財政基盤を強化するために、予算作成をとおしてコスト意識を高めます。	担当で事業計画作成した。利用者の意向を尊重したサービス提供につながる事業の導入について作成時期等を見直す必要があると感じた。	△

２．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数(人)	男性	12	12	12	12	12	11	11	10	10	10	10	10	132
	女性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	20	20	20	20	20	19	19	18	18	18	18	18	228
出席率（%）		76.9	78.6	80.2	77.6	75.0	84.2	76.1	77.3	81.4	72.5	78.9	75.3	77.8

※１．在籍者数は初日在籍数
※２．出席率は在籍数に対する出席率

３．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	3	合同ミーティング
	5	昭林公園お花見
5	15	健康診断
6	1	イチゴ狩り　歯科検診
7	13	外食の日
	31	防災訓練（消火訓練）
8	1	活動経過報告会
10	21	~~安城市福祉体育祭~~　→　雨天中止
	22	城南町まつり
11	10	社会体験
12	8	就労セミナー　（クッション言葉を使ってみよう）
	14	防犯セミナー（安城警察署）
	15	お楽しみ会
1	5	初詣
2	2	節分
	27	防犯セミナー（ALSOK）
3	7	防災訓練（避難訓練）
	16	就労セミナー(働くために必要な事)
	16	活動経過報告会
	23	防災訓練（通報訓練）
月行事	誕生日会	体重測定

４．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	合　　計
一　　般	29			29

５．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	合　　計
中　学　生	12	特別支援学校	8	20

６．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高(円)	内　　容
クッキー製造（自主製品）	816,010円	クッキー・チュイール 製造・販売
グレイシャスビラ安城	983,330円	高齢者施設のお風呂掃除
杉本商会	473,100円	ゴミ袋封入作業
富士カーボン	203,640円	カーボンブラシ箱詰め作業
フジイ化工	117,360円	エコキャップ選別作業
アルミ缶	7,440円	アルミ缶潰し作業
名刺印刷	14,924円	名刺印刷作業
飲食店	771円	チラシ折り込み作業
合　　計	2,616,575円	

７．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　2,239,219円
１ヶ月平均工賃支給額　　9,821円（１人当たり・賞与含む）